

開講日	2023年春期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	Web(Zoom)配信 + 録画配信
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 教授 杉浦健之		

科目概要および期待される成果	<p>【概要】毎年、痛み診療に直接関わる、あるいは、興味を持っているスタッフが大勢参加してくれています。本年度の学びなおし講座でも、引き続き“痛み”に特化した領域のレクチャーを企画いたしました。医師、理学療法士、薬剤師、心理士、看護学部と、多職種からの講師陣を揃え、基礎研究を含めた幅広い領域の中での“痛み”の最新情報や、“痛み”診療現場における生の声をお届けいたします。リピーターの参加者にも楽しんで勉強していただけるよう、新たな講師陣を加え、皆様のご参加をお待ちしております。</p> <p>【期待される成果】どの専門領域でも、痛みに関わらない医療分野はありません。医師や看護師の他、薬剤師、理学療法士、臨床心理士、管理栄養士、社会福祉士など多職種の方々に、痛み診療に関わるハイレベルな知識と技術を身につけていただき、“多職種チーム医療”に貢献できる人材育成を目指しています。痛みにお困りの方に寄り添い、適切な治療やアドバイスが出来る仲間をますます増やしていきたいと考えております。</p>
目標とする資格	いたみマネージャー・いたみコーディネイター(日本痛み財団)など

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	小児の痛み	小児は成人に比べ基礎疾患が少なく、手術を受ける機会も少ないです。しかし痛みを持つ子どもたちがいることは間違いなく、痛みを周囲に上手に伝えることができない場合も多いです。小児の痛みへどのようにアプローチするのか概説します。	4月5日	講師 徐 民恵 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野、名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-2	2	痛みの漢方治療	痛みの原因を考える上で重要な東洋医学的な考え方、寒熱(冷え・熱(炎症))や、気・血・水(患者の体を流れるエネルギー)の過不足、例: ストレス、体液分布異常、微小循環障害などを症例を提示しながら解説し、それぞれに対する代表的な漢方薬を紹介いたします。	4月12日	助教 加藤利奈 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学・名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-3	3	慢性頭痛患者へのアプローチ	近年、新しい片頭痛予防薬の承認や診療ガイドラインの改訂など、頭痛診療は転換期を迎えています。本講義では、頭痛の分類と新しい治療戦略について概説します。	4月19日	講師 太田晴子 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野、名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-4	4	慢性疼痛と行動科学 —その基礎と応用—	複雑な要因が絡み合う慢性痛は、医学モデルのみに基づく対応や理解には限界があります。本講義では、疼痛科学の分野で取り入れられてきた「行動科学モデル」の基礎理論から応用を概観し、行動科学から見た慢性痛患者の行動やQOLの促進について解説します。	4月26日	特任助教 臨床心理士 いたみマネージャー 酒井美枝 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野・名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-5	5	慢性痛の認知行動療法	認知行動療法はうつ病等の様々な精神疾患に対する有効性が認められており、慢性痛においてもエビデンスが蓄積されている。本講義では、慢性痛に対する認知行動療法の理論と実践について概説する。	5月10日	教授 小川 成 名古屋市立大学大学院人間文化研究科
L-6	6	慢性痛とこころの相互関係	慢性痛は不安・抑うつなどを引き起こすことがあるように感情や認知機能に多大な影響を与えます。同時に、負の感情などの心理的要因は慢性痛の発症・持続に関与します。本講義では、このような慢性痛をとりまく負のループについて最新の知見を概説します。	5月17日	教授 野村 洋 名古屋市立大学大学院医学研究科 認知機能病態学
L-7	7	股関節の構造と痛みの出現するメカニズムと治療	股関節の痛みは様々な病気が原因で起こります。本講座では、①股関節の構造 ②痛みの出現するメカニズム③リハビリテーション ④最新の手術などについてお話しします。	5月24日	講師 黒柳 元 名古屋市立大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学、名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-8	8	慢性疼痛患者に対する身体機能評価と運動指導・教育のポイント	慢性疼痛治療において、運動療法と教育を併用したアプローチが強く推奨されています。本講義では実際の臨床現場で慢性痛患者に行なっている機能評価と運動指導や患者教育のポイントをお伝えします。	5月31日	理学療法士 永田富義 名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-9	9	がんに伴う痛みと薬物療法	がん患者が経験する痛みに関して、前半はがんそのものによる痛みについて復習しながら疼痛緩和でも用いる薬剤について整理していきます。後半はがん治療、特にがん化学療法に伴う痛みに対して概説していきます。	6月7日	薬剤師 菱谷 まどか 名古屋市立大学病院 薬剤部
L-10	10	周術期のQOL向上を目指した薬剤管理について	適切な術後鎮痛は、患者の周術期のQOLを向上させるだけでなく、様々な合併症の発生を抑制することが期待されています。本講義では、術後に出現する疼痛だけでなく、様々な合併症に用いられる薬剤について説明します。	6月14日	薬剤師 北山 純花 名古屋市立大学病院 薬剤部
L-11	11	心電図から手術後の痛み増強を予測するAIの開発	主観的な感覚である痛みを客観化・定量化する試みが行われてきました。本講義では、最新のAIモデルを用いて心電図から痛みの増強をリアルタイムに予測・検知する研究についてお話しします。	6月21日	助教 中西俊之 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野
L-12	12	慢性疼痛患者に対する運動療法の基本的な考え方と実践	慢性疼痛の患者さんに対する運動療法により、痛みや身体機能、生活障害の改善に有効であることが報告されています。本講義では、その基本的な考え方と実践、さらにアドヒアランスを高めるための教育との併用アプローチについて概説します。	6月28日	理学療法士 井上雅之 愛知医科大学 運動療育センター・疼痛医学講座
L-13	13	「看護理論“病みの軌跡”の疼痛緩和に向けた活用」	疼痛看護への理解を深めていただくために、“病みの軌跡”の理論を取り上げて、COPDやアトピー性皮膚炎による苦痛に焦点を当てていきます。慢性的に苦痛を抱える患者について、看護の立場から理解を深めていただきます。	7月5日	准教授 小田嶋裕輝 名古屋市立大学大学院看護学研究科 慢性看護学
L-14	14	痛みの臨床から見る薬物依存	薬物依存というと、違法薬物の乱用をイメージされるかもしれませんが、市販の鎮痛薬や咳止め、処方された鎮痛薬、睡眠薬、精神安定薬も依存の原因になります。そして、痛みの臨床には薬物依存が潜在していることがたびたびあります。今回、痛みの臨床の立場から薬物依存について考えてみたいと思います。	7月12日	部長 春原啓一 名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 疼痛緩和支援治療科
L-15	15	慢性疼痛に使用する薬物、鎮痛補助薬の作用と患者への使用の実際	慢性痛の痛みの機序と抗うつ薬・抗けいれん薬・オピオイドの作用機序、実際の使用経験を絡めてお話しします	7月19日	教授 薊 隆文 名古屋市立大学大学院看護学研究科 先端医療看護学